

人(111) 画家兼デザイナー兼主婦

寺地 四十歳
仲塚 庸子さん

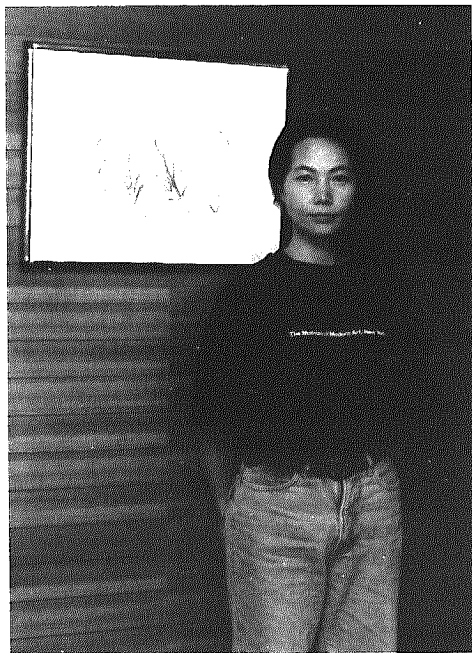
寺地在住の仲塚庸子さんは、製菓会社のパッケージデザイナーを本業としながら画家としても個展を開いている。家庭では主婦でもあり、二足の草鞋ならぬ三足の草鞋を履く活躍ぶりだ。

仲塚さんは小さいころから絵画

が好きで、油絵を始めたのは、中学三年の時だった。「同級生の座っている絵を描きました、初めて油絵にふれてうれしかった。でも、父が展覧会によく連れて行ってってくれて有名な人の作品ばかり見ていたので、なんであんなふうにくまく描けないのかな」と感じたそう。

高校になってからも絵を描き続けた仲塚さん、卒業後の進路も絵か絵に近い仕事に就きたいと考えていたところ、幸運にも亀田製菓(株)の社長(当時人事部長)に才能を認められ、パッケージデザイナーとなる。

パッケージは衛生的なお菓子を包む機能の他に、その商品の「顔」の機能も持っている。例えば「お使いを頼む時にぼたぼた焼と言わなくても、あのおばあちゃんの絵のお煎餅買ってきて、と言えばメーカーも名前もわからなくても買えますよね。商品の顔、となるようなパッケージ作りが苦しくて



写真/仲塚庸子(なかつかようこ)さん。笹神村に生まれ、父の絵画好きや美しい景色に影響をうけ生に絵画好きになる。子供の頃から将来は、「絵で生計をたてたい」と思っていた。壁の絵は昨年9月に描いた「植物」で気に入っている作品だ。家族は、ご主人と娘2人の4人家族。

います」ちなみに仲塚さんが手掛けた代表作は、鬼太鼓などで、そこに描かれているかわいい鬼の絵には「自分の子供のような思い入れがありますね」

家庭に帰れば主婦・母である仲塚さん、一人三役をこなす秘訣を

聞いてみると「手抜きしてます(笑)。やはり人間だから全部完璧にはできないですね。でも、絵を描く事を楯に取って(家事や仕事)が出来ない、とは言わないつもりだし、言いません」

とキツパリ、そんな仲塚さんを温

かく見つめるご主人は「家事の間を見つけて集中して描いていますよ。だからそんな時は声をかけるのも遠慮しているんです」なるほど三足の草鞋を履くためには、やはり本人の意志と家族の協力が必要で、きっとこれが秘訣なのだろう。

最後に今後の目標や夢を語ってもらった。「メトロポリタン美術館に私の絵を飾ることが、最終目標です。(夢は大きく持たないね。(笑い)と、言いつつ大きな夢を語ってくれた。また、確実なところでは、一年に一度は個展を続けていきたいと思えます」新潟市内の画廊で個展を何回か開いている。「個展は、自分の絵の方向性を検証する場なので、見に来てくれる方の作品を見る目が怖いですけれど、励みになりますし、手応えもありますね」素晴らしい絵を見せて貰えるよう、仲塚さんの今後の活躍に期待したい。

ほんの一冊

「毎日が夏休み」

角川文庫

大島弓子原作・古屋葉月著

大島弓子といえば「綿の国屋」で熱狂的ファンを持つ少女マンガ家であるが、その原作の映画化に伴う小説化である。主人公の林海寺スギナは中学生。再婚士の義父成雪と母良子の三人暮らし。エリートの父とお嬢様学校に通うスギナは良子の自慢の種だが、実は登校拒否の娘と登社拒否の夫であった。事が発覚してから遠い存在だった父とスギナは『なんでも屋』を始めて意気投合、価値観の転換についていけない母親との溝をうめていく。まっすぐな心と自由な発想で暗いテーマを明るく現代のおとぎ話にしている。マンガを読むいまどきの子を理解できない大人のあなたに、おすすめです。

(中山佳奈恵)

人の動き

5月末日現在	(前月比)	(前年比)
人口 24,042	(+ 30)	(+1116)
男 11,791	(+ 18)	(+ 71)
女 12,251	(+ 12)	(+ 45)
世帯 6,716	(+ 6)	(+ 77)
5月1日~末日		
出生 21	転入 73	
婚姻 15	転出 51	
死亡 14		



「うーん、どうして雨ばかりなのだろう」今年で三年連続雨天のため、体育館での開催となった町民親善大運動会。学童リレーなどは練習して参加する自治会もあるというのに残念だ。しかし、運動会の雨天用プログラム(毎年、天候を考慮して晴天用と雨天用の二つのプログラムが決められている)には、リクレーシヨンの種目が多く、どの選手も楽しそうに参加している姿がかえって印象深く感じられました。

◎さて、来月号は…町議会六月定例会の模様などを伝える予定です。

○お詫び
六月一日号の七ページニュース足報の「第六十一回通信記念」の文中十行目で「青木製作所」とありましたが、「青木製餅所」の誤りでした。お詫びして訂正させていただきます。

